

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000210	事業の開始年月日	平成16年1月1日
		指定年月日	平成20年4月1日
法人名	社会福祉法人豊笑会		
事業所名	ライフインハウス平戸		
所在地	(〒244-0803) 神奈川県横浜市戸塚区平戸町1156-2		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成28年10月27日	評価結果 市町村受理日	平成28年12月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の今までの生活習慣を大切にし、日常生活の中で無理のない範囲で、出来ることは行なって頂き、出来ない所だけを補うようにし、「穏やかな微笑みの介護」をモットーにし、ご利用者様一人ひとりのペースにできるだけ合わせて、必要な支援を行っていくように心掛けています。

季節ごとの行事やボランティアによる催し、毎日のレクリエーションを通じて単調な生活にならないように工夫しています。納涼祭などの大きな行事は、法人内の事業所同士で協力し合いご本人とご家族がいっしょに楽しめるように行なっています。

天気の良い日は出来る限り、屋外に出るようにし、散歩や買物を楽しんで頂けるように努力しています。

歌がお好きなご利用者が多いため、いつも歌声が響いている明るいホームです。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成28年11月21日	評価機関 評価決定日	平成28年12月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇介護計画の見直し体制の充実と徹底

通常3か月ごとに、職員による利用者の介護計画検討会議を行い、介護計画書を見直して現状に即したものにしている。また、この結果を基に訪問診療や看護報告書、職員による毎月のモニタリング、ADL表、利用者や家族の意向、更には、課題の抽出・分析など、各種記録類を整備し見直している。

◇家族の意見をサービス向上に活かす姿勢

家族の来訪時には、職員から挨拶して話しやすい雰囲気作りに努め、積極的に話を聞いている。また、気軽に要望や意見を出してもらえるよう、メールでも情報交換をしている。要望を受けて支援方法を見直し、少人数で短時間の散歩の時間を頻繁に設けることで、個々の利用者の散歩の頻度を増やすなど、家族の意見をサービスの向上に活かしている。

【事業所が工夫している点】

◇職員がゆったりと利用者と一緒に過ごす時間が持てるように、お茶の時間の開始後10分間は他の業務を行わず、利用者と一緒に座って談笑する機会として活用している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ライフインハウス平戸
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心・安全・安定した介護を行っている。	・理念の「穏やかに過ごせるよう、心豊かに笑みをもってお手伝い」と「事業所のお約束」を玄関ホールが目につく所に掲示して実践に努めている。 ・職員は利用者個々のペースを尊重し、穏やかに見守ることに留意して支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・他グループホームとの情報の共有や交換研修を行っている。 ・介護職や看護職の研修生の受け入れなどを行っている。 ・納涼祭などの催事やレクリエーションに地域の方の参加を呼びかけ、協力して頂き参加して頂いたりしている。 ・町内の夏祭りなどに参加させて頂いている。	・毎年、正月には町内会の獅子舞が事業所内で披露され、町内の夏祭りには利用者が出かけている。 ・事業所玄関前で利用者の外気浴や体操には、通りがかりの住民が参加している。また、事業所の納涼祭に近隣住民の協力を得、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の福祉体験学習や区内にある介護福祉専門学校の実習生、看護学校の学生の現場実習を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動状況を報告し、各委員より意見をもらっている。改善できる内容は、職員会議等で検討している。	・利用者家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員を委員として、2か月に1回開催し、事業所の活動状況を報告し、要望や助言を受けて運営の参考にしている。 ・助言を検討して、防寒用シートを災害用備品に加えた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	戸塚区グループホーム連絡会に参加し、情報交換をしている。また、地域包括支援センターの担当者には、毎月定期的に訪問して頂いており、何かあれば相談している。	・防犯体制について市が実施するアンケートに事業所の実情を回答している。市が主催する感染症対策などの研修には、その都度受講している。 ・毎月、地域包括支援センターの職員が来訪して情報交換するほか、入所希望者の紹介も得ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間自室の窓から外に出てしまった利用者様がいた。その方の居室の窓には事故防止のため鍵を追加している。 ・同じ方が、ベランダからも外に出てしまった。事故防止のため玄関の鍵は閉めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は、身体拘束廃止についての情報を収集して、職員を指導し共有している。個々の利用者に応じた、身体拘束を必要としない安全確保の支援方法を検討し対応している。 ・利用者や家族の了承を得、安全に配慮して玄関ドアは施錠している。 	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間のミーティングを行っている。 ・スタッフ各人からの話を小まめに聞いて、前兆がないか確認に努めている。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見人制度など、必要があればその都度、家族等の相談にのっている。 ・スタッフの学びについて、これからミーティングの時などに学ぶ機会を設けていきたい。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき細かい説明を心掛けている。また、改定時にも理解して頂ける様に、丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者、ご家族からの要望等は、出来る限り意見が反映されるように、その都度職員間で検討するようにしている。 ・家族の面会時、スタッフが家族との情報交換に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族来訪時には職員から挨拶し、話しやすい雰囲気作りに努め、意見や要望を聞いている。了解を得た家族とは、メールで情報交換して意見を聞いている。 ・家族の意見から支援方法を見直し、散歩の頻度を増やした事例などがある。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・ホーム長も含めミーティングを行っている。 ・管理者とスタッフが個別で面談し、話を聞かせてもらう機会を作っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議や職員面接のほか、日常的にも管理者は、積極的に職員の意見を聞いて、日常のサービスに反映している。 ・利用者と一緒に過ごす時間をもちたいとの職員の意見から、お茶の時間の開始後10分間は、利用者と一緒に座って談笑する時間とした。 	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部職員が定期的に事業所を訪問し、職員個々の就業状況の把握に努めており、職場環境の改善、整備をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や連絡会がある。 ・法人のグループホーム連絡会の内容を、ミーティングの時に話し、情報共有している。 		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方には、声掛けを大切にし、傾聴しながら、不安、要望等を探り、出来るだけ安心感を与えられるよう心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等にご家族にお声掛けし、要望を伺ったり、状況の説明等をさせて頂いたりしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで出来る事、出来ない事を説明し、ご本人とご家族にとって一番良いと思われる支援を共に考え、アドバイスするように心掛けている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように何でも言い合える関係を作っている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族に、必要に応じて電話などしてもらい、関係を作ってもらっている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族や友人等の面会、外出、電話などの支援をしている。 ・古くからの友人が面会に来られた際などに、今までのお話を聞かせてもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者へは、家族や友人との電話の取次ぎを行い、家族とは墓参などの外出に協力している。 ・家族や知人来訪の際は、お茶を出してゆっくりと話ができるよう支援している。毎年遠方から知人が訪ねてくる利用者もいる。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えやレクを行って、利用者同士の関係を深める工夫をしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、自宅へ戻られたご利用者は少ないが、電話等で連絡を取ったりしている。長期入院のため退所したご利用者の病院に面会に行き、再入所の可能性があるればご家族と相談する場合もある。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意思を大事にしている。	・職員は傾聴に心がけ、今までの暮らし方や希望の記録を、思いや意向把握の参考にしている。 ・意向把握困難なときは、表情や態度を観察し、利用者にとって良いと思われる方法で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	好きなこと、嫌いなことを把握し、レクなどを考えている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月ADLを書き、利用者の体調・状態を把握する。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ミーティングを行い話し合う。	・3か月の短期、6か月の長期目標を設定した介護計画を立て3か月毎に、また、必要に応じて、計画を見直している。見直しにあたっては、ケース会議での職員の意見、利用者や家族の意向、医療関係者の意見をもとに検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や申し送り気付きノート等を利用して、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご家族やご利用者の状況に応じて、法人内の事業所間で検討が必要な場合は、総合的に支援ができる体制を整えている。 ・個別のニーズに答えるため、訪問マッサージの手配をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にピアノ演奏等のボランティアの方に来訪していただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、訪問歯科を利用しているが、その他の通院も支援している。	・利用者や家族の同意を得て、全利用者が事業所の医療連携機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療、週1回の訪問看護を受けている。週1回、歯科の訪問診療がある。 ・専門医受診には家族が付き添い、必要に応じて職員も同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の状態・体調などを訪問診療時に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院・家族と連絡を取り、利用者の現状を把握している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	何度かターミナルの対応を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用開始時に、利用者と家族に「重度化・終末期ケア対応指針」を渡して、事業所の考えを説明している。 ・必要に応じて、医療関係者や家族と話し合い、看取りの介護計画を作成し、関係者が連携して支援している。過去に1件看取りを行った実績がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後予想される終末期ケアに対応し得るよう、職員研修を計画的に実施することが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時などに話をする。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練やマニュアルを読み、目につくところに掲示してある。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者も参加して、年2回夜間を含む避難訓練を行っている。内1回は消防署員が立ち会い、助言を受けている。 ・飲料水3日分、α米やレトルトカレー各1日分、紙オムツや防寒用シートなどを備蓄し適切に管理している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との災害時の協力体制を築くため、避難訓練に近隣住民の参加を得ることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人にあった対話を心掛け、ゆつくりと穏やかに接するよう心掛けている。	・利用者一人一人の誇りを尊重し、その人に合った言葉かけや対応をしており、不適切な対応があれば管理者がその場で注意し、職員同士でもお互い確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伺う時には選択肢を用意したりして、自己決定のチャンスを作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が希望するレクなどを聞いて実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・2ヶ月に1回訪問理容に来て頂いている。 ・理髪店、美容室などにスタッフが同行することもある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食器ふき、片付けなど、できることを利用者様に手伝ってもらっている。	・食材は業者に委託して、職員が利用者の嗜好や食習慣に配慮して調理しており、利用者はできる範囲で買出しや食器拭きを手伝っている。 ・月に1～2回のお楽しみメニューではハンバーガーやあさりご飯などを提供し、利用者は楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・チェック表を書いて1日の食事量、水分量等を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎日3回口腔ケアを行っている。 ・訪問歯科に来て頂いている。必要に応じて治療を行って頂く。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの間隔などその方のタイミングで声掛けをしている。	・排泄表を活用し、利用者のできることを尊重しながら、声掛け・誘導、見守りをして、排泄の自立に向けた支援を行っている。 ・夜間は、睡眠を妨げないように注意しながらトイレ誘導をしている。ポータブルトイレを使用する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた対応を心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は決まっているが、本人の希望で入る入らないは決めて頂いている。	・入浴は週に2~3回を基本とし、入浴を好まない人には、時間や日時をずらすなどの工夫をして、無理強いのないようにしている。 ・入浴を職員と1対1でゆっくり話せる機会と捉え、思い出話を聞いてあげるなど、大切な時間になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れていたり、眠そうな時は居室で休まれるように声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェック表があるため、薬を理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が希望するレク、好きなレクなどを実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが同行し近隣の散歩、買い物などに一緒に行く。 ・家族の協力もおおいで、外出もしてもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日にはできるだけ、散歩に出かけたり、玄関前駐車場のベンチで外気浴をしており、また、近くの神社への初詣、桜の名所への花見なども楽しんでいる。 ・家族の協力で、墓参りや、羽田の花火大会に出かける利用者もいる。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に合わせ、電話などを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除チェック表があり、常にキレイに保っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・温湿度、照明や換気に配慮した明るい居間、段差なく出られるベランダはゆっくり寛げる場所になっている。 ・居間には利用者と職員による季節の作品、廊下の壁面には納涼祭や運動会などの行事の写真を掲示し、楽しい雰囲気になっている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダやソファなどがある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が長年利用されてきた家具や寝具などを持ち込んで頂いたり、家族の写真など本人の愛着のある物を置いたり、心地よく過ごせるように配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には使い慣れた家具や仏壇などを持ち込み、家族の写真や趣味の物を飾って、自分らしい部屋にしている。 ・職員による清掃が行き届き、室内は清潔で居心地良く過ごせるようになっており、職員と一緒に掃除をする利用者もいる。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで安全に移動が出来るようになっている。トイレや居室がわかるように表示などを工夫している。		

事業所名	ライフインハウス平戸
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に付く所に貼り常に意識するように心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関前でレクリエーション等を行っている、その輪の中に入ってきてくれる地域の方が増えてきている。 ・納涼祭などの催事やレクリエーションに地域の方の参加を呼びかけ、協力して頂いたり、参加して頂いたりしている。 ・町内の夏祭りなどに参加させて頂いている。 		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の時など、地域の方との会話を通し、理解して頂けるように心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で活動状況を報告し、各委員より意見をもらっている。改善できる内容は、職員会議等で検討している。 ・率直な意見を頂けるのでサービス向上に役立っている。 		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	戸塚区グループホーム連絡会に参加し、情報交換をしている。また、地域包括支援センターの担当者には、毎月定期的に訪問して頂いており、何かあれば相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守り強化を常に意識し、拘束をしないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士の話し合いの機会を設け、虐待防止の徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用しているご利用者もいる。必要があればその都度、家族等の相談にのっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき細かい説明を心掛けている。また、改定時にも理解して頂ける様に、丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の会話の中からも意見・要望を汲み取り、反映できるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、各事業所の管理者を招集した会議や法人内グループホーム連絡会を開催し、意見や提案を聞いている。また、管理者は毎月のユニット会議の中で職員の意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部職員が定期的に事業所を訪問し、職員個々の就業状況の把握に努めており、職場環境の改善、整備をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内事業所の新任職員を対象にオリエンテーション、新人研修を行なっている。外部研修への参加の機会も徐々に増やしている。管理者、ユニットリーダーが中心となり、現場の指導にあたっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会や戸塚区グループホーム連絡会にて、勉強会や情報交換をしている。隣接するグループホームとは、防災訓練や行事等で日常的に情報交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接シートを参考に会話や表情から要望等を把握し、より良い関係作りを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	会話を通し、不安や要望を汲み取る。またご家族がいつでも面会に来れる環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・グループホームで出来る事、出来ない事を説明し、ご本人とご家族にとって一番良いと思われる支援を共に考え、アドバイスするように心掛けている。 ・本人と家族の希望を最優先し、スタッフの意見も取り入れて、必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常の家事作業は全て利用者と一緒にやっている。 ・但し、認知症の症状や歩行状態の悪化のため、できない作業が増えてきている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況や希望を伝え、外出や買い物等をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に誰でも面会に来て頂けるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席を工夫したり、時には職員も交えた茶話会を行い、関わりが持てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後、自宅へ戻られたご利用者は少ないが、電話等で連絡を取ったりしている。 長期入院のため退所したご利用者の病院に面会に行き、再入所の可能性があればご家族と相談する場合もある。 ・電話連絡やお見舞い等も行っている。 サービス利用が終了したご家族がボランティアに来てくださっている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話や表情から希望や意向が把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などを台帳にまとめ、職員がいつでも目が通せるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力量等の現状の把握に努めている	申し送りや、気づきノートを活用し、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に直面する度に話し合いをしている。 ・本人と家族の意見を最優先とする。 		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に毎日記録し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに応えられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にピアノ演奏等のボランティアの方に来訪していただいている。 ・家族、近隣住民、友人、ボランティアさん等の力をお借りして支援している。 		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時に職員が付添、本人や家族の希望を主治医に伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、すべての利用者は2週間に1回、訪問診療を受けており、主治医と看護師に日常面での健康管理について相談をしている。診療日以外で、利用者の健康上の問題がある場合は看護師に連絡し、相談している。 ・訪問看護の際、スタッフが付き添い、状態を伝えている。また連絡ノートも活用している。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換は受診時及び特変時に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や利用者の意向を踏まえ、重度化した場合の対応について職員間での話し合い、方向性を考えている。重度化し対応困難な場合は、法人内の他サービスで支援が可能であるか、随時検討できる体制を整えている。 ・書面でご家族の意向を確認している。 		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時必要な応急処置、対応をミーティング等で確認し合っている。事故発生時は管理者、ユニットリーダーと連絡を取り、指示のもと適切に対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・火災訓練を毎年行っている。年に2回実施。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃意識しながら、言葉掛けや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事に対しても強要したりせず、自己決定して頂けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅と同じように過ごして頂けるよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・洋服はできる限りご自分で選んで頂いている。 ・女性の利用者様には、時々メイクをして差し上げている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付けなどを一緒に行う。また食べたい物を聞き、外食したり、買って来たりもしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェック表に記入し、量を把握し、咀嚼、嚥下状況により、とろみを付けたり、刻みにしたりの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後本人の力に応じた口腔ケアを行っている。 ・うがいの苦手な利用者様には、食事の最後にゼリーを食べて頂いたり、お茶を飲んで頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレに誘導し、失敗することなくトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に体操を行い、歩行の呼びかけや、水分摂取量の確保を心掛け、薬だけに頼らないようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	お風呂に入りたいといった利用者の意見を確認後、入浴して頂いている。また数種類の入浴剤を用意し、色と香りも楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の使い慣れた物や好みの寝具で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬中の薬の情報を台帳にファイリングし、職員全員が見れるようにしている。 ・会議の中で各スタッフが担当利用者が服薬中の薬の種類や効能について、発表を行い、より薬についての理解を深めるようにした。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	面接シートや会話の中から、情報を得て、支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い季節は可能な限り、外出を心掛けている。また遠出希望の利用者に対しては、家族の協力をお願いしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望であればお金は本人に管理して頂き、買い物の際は職員が付き添っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけて頂いている。手紙は声掛けしてもなかなか書くには至らない状態。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けを行い、カーテンや家具は落ち着いた色の物を使用し、心地良く過ごして頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを置き、ゆっくりテレビを観たり、仲間とおしゃべりに使用して頂いたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ってきて頂き、配置は必ず本人と家族の意見を優先して決めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、安全に移動できるようにしている。		

